

マリ共和国、これからの 10 年は？

—種々な事情が絡み、一進一退が長く続きそう—

小島 通雅

北部でのトアレグ独立闘争がもう何十年にも渡って繰り返されていることはご承知の通り。昨年 1 月に再び蜂起し、4 月には北部の独立宣言。今回の紛争では、MNLA（アザワド解放民族運動）以外にイスラム原理主義過激派の動きが新しく加わり、その様相も大きく変わった。

アルジェリア、ニジェールを初め、近隣には石油、天然ガス等の豊かな地下資源が埋蔵されている。その開発利用を大々的に進めようとする政府側、それから締め出されるなどしてこれに反対する側。そこにトラブルが何処でも起こる構図だ。反対派が中近東の過激なグループの影響を受けて自国政府への反対運動をエスカレートし、政府の方はそれに対する取り締まりを厳しくする。また、彼等は資源開発を進め自分達を取り締まる自国政府を攻撃するだけでなく、政府を支援し開発を実質的に遂行する西欧の国々、その施設を標的にする。

国内的にも国際的にも取り締まりが厳しくなれば、何処かに安定した「ねぐら」を求める。国境がオープンで目指す攻撃対象のある国に近く、取締りの力も弱い所、マリ北部にそれを見たのだろう。そうなのは「困る」として、中部の都市・モプチを目指した今年 1 月の南下に際して、素早くフランスが緊急の軍事介入。その後の近隣諸国からの軍隊派遣も前倒しにされ、米独英等の実質的支援もあって北部の占拠されていた都市や町も一応取り戻した形になっている。

しかし、国の内外へ難民として出た人々はまだ戻ってきていない。また、残っていた人々も住んでいた地域、部族によっては反乱グループへの協力者の疑いをかけられ、

不法な取り調べを受けている様子。イスラム原理主義過激派とは一線を画していた MNLA 等とは何度目の事だか、フランスや近隣国諸国の仲介で停戦を、そして何とか仲良くやっていく道を模索する動きもあるようだ。けれども一般国民の感情や軍部の中には強い異論もあるようで、どう落ち着かせることができるのだろうか。

更に近隣諸国が強く要求する国民全体での民主的選挙、それによる大統領選出も問題だ。延ばしのばしであったが、この夏 7 月 28 日に行われるとか。しかし上手く選出されても、選出後に北の問題をどう扱うかの難問がある。扱い次第ではマリ国民や軍部の不満に再び火が付きかねない。北の治安維持に当たるといって国連部隊についても名前は国連部隊だが、近隣諸国からの寄せ集めの部隊。装備や訓練については欧米が急遽行っている様子だが、相手もいくつかのグループに分かれて多様だと、本来国を守る筈のマリ国軍との関係も気になる。また、国連部隊の方は部隊の方で派遣国自国での問題を抱えている。

そんなこんなを考えてみるに、殆ど忘れられているソマリアでは 20 年を超えてもまだ混乱は続いているようだし、アフガニスタンにイラクだって何年になるのか。ここマリ共和国での紛争もそう酷くはならないかもしれないが、今後長く続きそうな気配がする。願わくは人口密度の低い砂漠地帯であることを良いことに、無人爆撃機の実戦利用マニュアルの改良テストだの、兵士に代わって戦闘を行うロボット兵器の開発や性能向上を試す場となったりすることのないように…

マリ人スタッフなくして現地活動は成り立たず！

～クーデター後一年のサヘルの森の現地活動～

榎本 肇

現地スタッフに感謝

昨年3月のクーデター以降、サヘルの森の現地活動は現地スタッフのトラオレさんとコニバさんが中心となって進めてきました。

日本から「この村とこの学校に行つて欲しい」とメールや電話でやり取りをし、月2回ほど彼らが現場のファナ地域に赴き、苗木配布や植栽樹の管理を行いました。普段は運転手兼通訳のトラオレさんも活動を伝えるためにコンピュータを駆使して報告書を作成し、カメラで撮った写真はCDに焼いて送ってくれています。慣れない仕事でさぞかし大変だったと思いますが、そのおかげで活動が手に取るようになります。



ファナ試験地のトラオレさん

乾期は植栽樹のメンテナンス

乾期に入る10月からはこれまで雨期の間に行ってきた苗木配布をやめて、これまでに配布した苗がどのように生育しているか確認し、必要があれば保護柵の補修や補植などを行っています。特にこれまで関わってきた小学校の学校林のメンテナンスには力を入れてきました。

植樹適期の雨期は農事休業で生徒はいませんが、乾期に入る10月からは授業が再開され生徒が学校に戻ってきます。これまでは学校林として木を植えるのは父兄が行ってききました。一方、普段の水やりなどの管理は生徒達が担当しているので、生徒と共に保護柵の補修や補植を行っています。小学校林が育てば緑陰や建材を与えてくれますが、生徒たちが自ら木を育てるという場も提供してくれています。



生徒達と補植を行う
《ンガバコロ小学校》

訪れることが双方の励み

雨期の苗木配布や乾期の小学校林のメンテナンスなどで村を訪れた時、これまで配布した苗木の生育状況をできる限り確認しています。

村を訪れると、こちらから切り出すより早く「もらった苗が大きく育ったから見ていってくれ」と植えた場所に連れて行ってくれます。

確かに立派に大きく育っているものもありますが、家畜に食われて見るも無残なものもあります。そういった状態でも「ちゃんと生きていくだろう」と言わんばかりに…。



日本人でなくともマリ人スタッフが村を訪れても同じです。こうしたやり取りが、村人の木を育てる意欲を後押ししています。

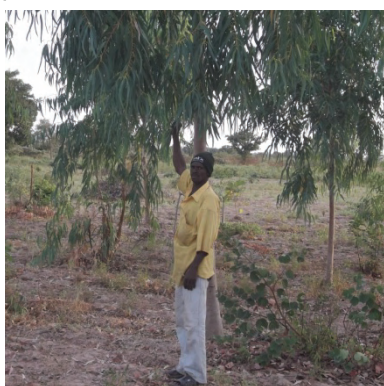


植えて5年経つニームと女性
《サナンコロ村》

在来樹種の種子採取

一部の在来樹はたとえ有用であっても、地域苗畑などで生産されていません。それは苗木としての商品価値がない、すなわち買ってまで苗木を植えないためです。また育苗や育成技術が確立していないことも関係しているかもしれません。サヘルの森では、薪炭材として最適とされるチャンガラ (*Combretum sp.*) や油糧樹木であるカリテ (シアバターノキ、*Butyrospermum parkii.*) を育成しようと考えています。

乾期の2~3月はチャンガラなどいくつかの在来樹木の種子の採取適期なので、種子の採取を行っています。チャンガラは種子が実るほど枝が太くなる前に薪炭材として切られてしまうので、なかなか種子を得られず苦労しています。



チャンガラの種子採取

今年の活動の展開を見据えて

昨年末から今年の1月にかけて、小島をバマコ市内に限定してマリに派遣しました。結果的に仏軍介入の時期と重なってしまいましたが、その時点ではバマコ市内であれば問題ないとの判断からでした。

現在、活動を継続しているファナ地域への訪問はできません



でしたが、新たにバマコ南部の地域を回り活動の可能性を探ってきました。バマコ南部は、市内から数十kmしか離れておらず、日帰りもできます。この先ファナ地域には行けなくとも、日本人が

バマコに滞在できるようであれば活動できる地域として考えています。

また、バマコの南部はトラオレさん達、マリ人スタッフが新たな展開を進める場としても期待できます。ファナ地域と共に少しずつ今年の活動を展開していきます。

この記事の写真はトラオレさんが撮ったものです



本年(2013年)の現地活動の見通し

代表 坂場 光雄

2012年のマリ共和国での活動は、総会資料などでご報告しましたように、3月のクーデターとその後の政府の混乱、北部の武装勢力の活動のため、予定していた日本人の派遣の大半が見送られましたが、マリ人スタッフによって、ファナ地域を中心に行ってきました。

2012年12月～2013年1月には、マリの治安等の状況把握・本年度計画のための情報収集、さらにはマリ人スタッフとの打合わせ・支援活動のため、バマコのみ滞留で日本人スタッフを派遣しました。帰国後の1月下旬には、在マリ日本大使館が一時閉鎖になり、日本外務省の渡航情報ではマリ全域が「退避勧告、渡航延期」の対象となっていました。

その後、仏軍やアフリカ軍が北部の武装勢力の排除をめざしていますが、反政府勢力によるゲリラ的な反撃も報道され、また民族間のトラブルも聞かれています。マリ国内外への避難民は47万5千人に及び、多数の子供たちの栄養不足もあるようです(2013.5.16朝日新聞)。

6月になると、雨期が始まり、農業とともに苗木植栽の適期になりますが、現在の状況では、しばらくは昨年と同様にマリ人スタッフを中心に、連絡を取り合いながら、ファナ地域やバマコの南部地域で、苗木の配布や学校の植林等を進めていきたいと考えています。



安全確保に努めつつバマコ南部とファナ地域で活動する予定

国連の平和維持軍に中国の参加等も伝えられ、状況は刻々と変わっています。7月28日にはマリの大統領選挙が予定されていますが、その後の治安の回復を期待するばかりです。

本年は、ファナ地域よりさらに近い、バマコ南部地域での苗木配布等も予定されています。日本人の派遣の可能性も探りつつも、地域の安定や安全性を確かめながら、マリ人スタッフによる新しい安全な地域での活動展開も、実施したいと考えています。

引き続きのご支援をお願い致します。

会員番号物語 (その 4)

総会 今昔

久保 隆一郎 (会員番号 94)

2013 年度の会員総会は、3 月 30 日 (土) 渋谷区の上原区民会館で開催された。

例年通りの 3 部構成。第 1 部の「報告会」は、小島通雅 (会員番号 5 番) と榎本肇 (会員番号 688 番) が担当。昨年 12 月から 1 ヶ月間マリの首都・バマコに滞在した小島からは、報道だけではつかみ切れない人々の生活やマリの現状について最新の報告がなされた。

第 2 部の「会員総会」では、日本人が派遣できない中、マリ人スタッフを中心とした現地活動とそれらを支える国内活動について議論され、坂場光雄代表 (会員番号 272 番) より提示された 13 年度の活動計画案と予算案が承認された。

第 3 部の「懇親会」では現場スタッフを取り囲んでマリについて語り合ったり、マリ料理に舌鼓を打ちながら会員が交流した。

総会の参加者のうち会員は 18 名。会員番号的に一番の古株は 5 番の小島通雅、新人は宮代裕子の 1526 番であった。

「サヘル」の設立総会は 1987 年 1 月 25 日に 45 人の会員の参加で開催された。同年 9 月 19 日の臨時総会では運営委員 20 名、監査委員 2 名、顧問 5 名が選任された。この「サヘル」元年の総会に参加し今年の総会にも参加した会員は 2 名。そのひとり米倉伸子 (会員番号 10 番) に記憶を辿ってもらった。「設立時の会員には JVC (日本国際ボランティアセンター) の関係者が多く、その関係で文京区民センターで行われた。当然のことながら誕生の熱気にあふれていたが、その会が四半世紀以上続いていることにも熱さを感じる」

…会員番号は整理のための数字ではない。会員番号にはひとつずつのドラマと意がある。今は欠番の人の思いも積み込んで、会は前に進んでいきます。(サヘル)

国内活動報告 (1~4 月)

< 報告会・講演 >

・3/26 国際緑化推進センター・国際ワークショップ

「熱帯地域の森林造成 (その事例に学ぶ)」(文京区シビックセンター)

・3/30 現地活動報告会 (上原区民会館)

< 学校との関係 >

・1/10 神奈川県立港北高校「NGO 特別授業」にて講演

・2/6 横浜市立浦島丘中学校「廃品回収収益金委託式」

・2/14 横浜雙葉高校・総合学習授業にて講演

・4/30 江戸川区小岩第一中学校パック回収とお話し会

< イベント >

・1/20 第 6 回市民協働フェスティバル～まちだ地域活動カフェ～(町田市民フォーラム)

・4/27~29 アフリカヘリテイジフェスティバル 2013(相模大野中央公園)

< 定例活動 >

・1/19 清澄庭園、富岡八幡宮

・2/16 浮間公園、板橋熱帯環境植物園

・4/20 石神井公園、善福寺公園

■国際ワークショップ「熱帯地域の森林造成 (その事例に学ぶ)」に参加

2013 年 3 月 26 日に国際緑化推進センター主催の講演会が後楽園のシビックセンターで開催され、講師の一員として参加しました。今回のワークショップでは、これまでの熱帯地域における植林の取り組み事例との成果と課題の報告を行なうとともに、報告者と会場参加者の間で、これからの熱帯地域の森林造成に関して討議が行なわれました。

インドネシアの元林業省研究開発局の Dr. Ginting 氏の「森林減少・劣化からの温室効果ガス削減 (REDD)」の講演がなされ、また、インドネシアで活動する日本の 2 団体の活動が紹介されました。最後に、乾燥地における住民参加型植林ということで、マリ共和国での活動を紹介しました。

その後の討議では、植林後の管理が取り上げられ、住民とともに進んでいるとい

うことでサヘルの森の活動に質問が集中しました。

植林に際して、お金でつるのではなく、参加者が育てることで、自分たちに役立つことを実感してもらうことを話しました。

また、1度だけ苗木配布・植林で終わるのではなく、住民に少量の苗木提供から始めて、繰り返し、村を訪問して、その実績を見守るとともに、さらに、追加の苗木を提供していることや、地域の苗木を育てて、持続的な協力体制を作り出すということが重要と考えていることを伝えました。

50名ほどの参加者があり、熱心に聴いていただきました。その後、資料をお送りしたNPOの方からは、一番印象に残ったというコメントを頂きました。

(坂場光雄)

■横浜雙葉高校で総合学習の授業

2月14日に横浜雙葉高校の1年生に総合学習の時間にマリでの活動の話をしました。後日、その話を聞いた生徒さん達一人一人からの感想文をいただきました。私の話をどのように感じてくれたのか、話をした私にとっても大変参考になりました。全部を紹介したいのですが、その一部を抜粋してご紹介します。(榎本肇)

マリ共和国は先日の**アルジェリアの事件**の時、また学校の世界史の授業など色々な場で見聞きしたことがある国でした。サハラ砂漠、サヘル、ニジェール河など、様々な自然の恩恵を受けていた国であることを初めて知りました。…

…今まで読んできた本や教科書、そして講演会では**アフリカの国の素晴らしさ**を述べているものはあまりなかったように思います。榎本さんの話を伺って、直接マリは素晴らしいと言っているわけではないのに、マリが良い国なのだということがひしひしと伝わってきました。

…私も**バオバブ**の実を食べてみたいです。ラムネの味の実だなんて珍しいと思います。…

…古くからアラブの人々が長い砂漠の道のりの終着の喜びを込めて、「**サヘル**」と呼んできたであろう森が、失われてしまうのは悲しいなと思います。伐採だけでなく、現地の耕作や家畜、都市での生活に不可欠な木材の使用なども砂漠化に影響していることをはっきり理解し、問題を食い止めるには一筋縄ではいかないことを改めて実感しました。

…日本は砂漠化なんて今は考えられないほど恵まれた気候にあると思われま
す。だからこそ他の国々に緑を提供し、共に支えあう環境を作り出すことができるとも思います。私も植林などの**ボランティア**に参加してみたいです。

…日本に比べればまだまだ発展していないと思いますが、携帯が出回っているというのを聞いて驚きました。また、私は**マンゴ**が大好きなので美味しいマンゴが安く食べれてうらやましかったです！…

■アフリカヘリテージフェスティバル 2013 (4/27~4/29)に参加して

相模原には多くのアフリカ系外国人や、アフリカにルーツをもつ子供たちが多く暮らしています。そうしたアフリカ人コミュニティ（日本人との国際結婚も含む）やアフリカとかかわりのある個人や会社、あるいは団体などが集まって、手作りしたフェスティバルです。

相模原というローカルな地域での開催という事だけでなく、アフリカにルーツのある人たちが中心になったという点でも、ひと味違うものでした。

「アフリカヘリテージ」とは、

アフリカヘリテージの意味は「アフリカの財産・受け継がれてきたもの」です。

アフリカヘリテージコミティの活動は、特に「こどもたち」に向けられたものが主軸となっています。それは、より良い社会・世界を実現するためには、次の世代を担う子供たちに大切なアフリカ文化を伝えて、子供たちの世代から変えていく必要があるということのようです。

アフリカヘリテイジコミティが特に大切にしているのは、目で見て、聴いて、触って、食べて、五感で感じて、生きたアフリカ文化を伝えるということです。アフリカ文化の魅力はまさにそこにありますね。

フェスティバルでは、アフリカのライフスタイル、食文化、歌や踊り等、アフリカで受け継がれてきたものに触れる事で、アフリカに興味をもってもらうきっかけになる場を目指しています。またビジネスの面でも、アフリカと日本の直接のパイプ役になり、相模原が「日本とアフリカの文化交流の拠点」になることを目指しているようです。

「サヘル」の森」は

3日とも良い天気にも恵まれ、多くの来場者にサヘル」の森の活動を広報することができました。

NGOのブースとしてはサヘル」のほか数団体の出展でしたが、サヘル」の森のブースで立ち止まって熱心に話を聞いてくださる人には、マリや西アフリカに旅行へ行ったり、援助活動をしていた人が多くいました。

今回は「サヘル」を覗ける窓」と称して、パネルや写真を使って省スペースで楽しんで見られるディスプレイを作りました。

子供は覗くという行為に、興味を持ってもらえましたが、大人にはうさん臭く？思われたのか、逆に躊躇する人が多く見られ、今後の改良を余儀なくされました。

でも、奈良の報告会での「寸劇（苗木を配布する?）」をはじめ、イベントでの新しい試みには、これからも取り組んでいきますので、会員のみならず、楽しみに待っていて下さい。
(米倉伸子)



【サヘル」を覗ける窓】

■定例活動報告

テレビでは、旅番組や地域紹介でいろいろな場所の紹介がなされていますが、やはり自分で現地に足を運んで、五感で得られる情報を大切にしたいと思いながら、定例活動を行なっています。2013年になって、4月までに3回の定例活動(毎月第3土曜日)を行ないました。

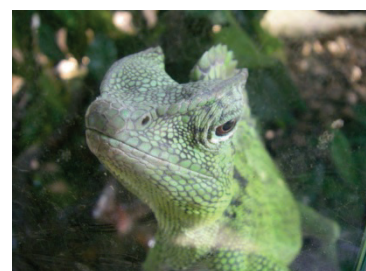
1月19日は隅田川の東の富岡八幡と清澄庭園付近を訪れました。池波正太郎の時代小説を読まれる方はおなじみの地名。江戸時代の繁華街ですが、いまや住宅地。深川七福神をたどりながら、散策。途中にある清澄庭園は紀伊国屋文左衛門の屋敷だったとか。大きな池のある回遊式築山山水庭園。芭蕉記念館もありました。狭い地域ながら江戸からの歴史の蓄積が感じられるところでした。

2月16日は、東京の北部、埼玉県との県境に近いJR浮間船渡駅からの出発。浮間公園の池では冬鳥観察。この池は荒川の旧蛇行部分で、河川改修で残されたものです。昔は荒川の低湿地地帯で、サクラソウが一面に咲く様子が見られたということですが、現在は公園の一角に圃場があり、4月ごろサクラソウ祭りが開催されるとのこと。北側に荒川の大型堤防がありましたが、北風が強い。

工場地帯や住宅団地を抜けて、板橋区立熱帯環境植物館へ。ここはゴミ焼却熱を利用した大温室。ただ植物を育てるばかりでなく、熱帯の魚類も飼育されており、水辺と一体となったマングローブ林も見られました。最上階では涼しく湿った環境の雲霧林もあり、コンパクトな施設ながら、いろいろな生態環境を学びました。

【温室の住人】

4月20日は、武蔵野台地の湧水池である石神井公園と善福寺公園を訪問。青梅付近から緩やかに広がる台地は火山灰に覆われているため、水に乏しく、このあたりからいくつかの湧水がみられ、石神井川や善福寺川となって流下していきます。



西武池袋線の石神井公園駅から南へ下ると、手漕ぎボートが並ぶ公園。湖岸にはふるさと文化館があり、古い縄文遺跡の出土品や昭和の時代の生活展示、裏には民家園もあり、「3丁目の夕日」的な懐かしい気分。上流側は樹林で囲まれた三宝寺池。周囲にはビルが見えないので、深山の趣。



【昭和の生活展示】

そして、住宅地を抜けて、上石神井の駅を横断し、1時間、まわりの台地から、やや低くなったあたりに、大きな池のある善福寺公園に到着。湧水風に水が湧き出ていたが、これはポンプで循環させているのですよと、地域ネコに餌をやっているマダム。大きな樹木群のある湖畔をとおり、帰途へ。JR 吉祥寺駅へ出たが、多くの人で混雑。少し雨にあいましたが、懐かしい風景に触れました。

(坂場光雄)

イベント案内

■定例活動■

毎月第3土曜日に行っています。お気軽にご参加ください。なお、詳しくは電話(留守電を残して)、メールにて事務局までお問い合わせください。

- ・7/20 日比谷公園、東京駅
日本初の洋風近代式公園と改装後の東京駅を訪ねます。JR 山手線・新橋駅集合。
- ・9/21 池上本門寺、大田区郷土博物館
鎌倉時代建立の寺院と地域の博物館を訪ねます。東急池上線・池上駅集合。
- ・10/19 サザエさん博物館、駒沢公園
庶民派マンガとオリンピック公園、日本土木遺産の駒沢給水所を訪ねます。東急田園都市線・桜新町駅集合。

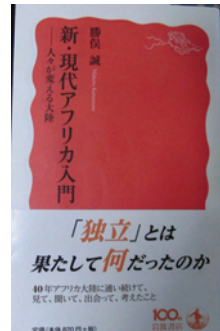
■サヘルキャンプ■

- ・8/24～8/25 栃木県鹿沼～足尾
荒廃地緑化の先駆地・足尾を訪ねたいと思います。詳細が決まりましたらホームページ等でご案内します。

【アフリカ関係書籍紹介】

創設当時、サヘル・森(会)の運営委員を務めていただいた勝俣誠氏の最新刊『新・現代アフリカ入門』(岩波新書)をご紹介します。

植林(緑化)に関しても、当事者による企画と評価なき「住民参加」事業は単なる業務の下請け化に過ぎない、市民による民主化運動が環境保全を成功させた、といった厳しく耳の痛い指摘が眼に飛び込んできます。



七夕募金のお願い

夏季恒例の七夕募金へのご協力をお願いいたします。短冊にはサヘル地域の安定化への願いを込めたいと思います。



振込用紙を同封させていただきました。また、本年度会費がまだの方は、納入下さいますようお願いいたします。

会費納入にご協力ください

NPO 法人『サヘル・森』はサハラ砂漠の南縁サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、郵便振替で下記の口座に会費をお振込みください。

- ・一般会員 年 5,000 円
- ・維持会員 年 20,000 円

特定非営利活動法人 サヘル・森

住所: 〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403 (株)エコプラン内
TEL: 042-721-1601 (留守電対応)
FAX: 042-721-1704
郵便振替口座: 00170-6-115054

HP: <<http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>>
E-mail: sahel-no-mori@jca.apc.org

機関誌『サヘル』No.92 2013年6月20日発行
発行人: 坂場光雄 / 編集: 高津佳史
